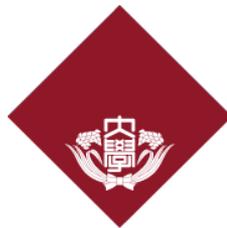


2020年度第4回北京大学-早稲田大学共同研究交流会



テーマ：漢字・漢語研究の新潮流

日時：2021年1月21日（木）



2020年度第4回北京大学-早稲田大学共同研究交流会

テーマ：漢字・漢語研究の新潮流

日時：2021年1月21日（木）

スケジュール:

- 09:30-09:40 北京大学国際関係学院副院长 董昭华準教授 開会のご挨拶
- 09:40-09:55 北京大学外国語学院 孫建軍教授
「「友好」という語について」
- 09:55-10:05 Q&A
- 10:05-10:20 早稲田大学社会科学総合学術院 笹原宏之教授
「日本の漢字研究の最近の動向と新しい課題」
- 10:20-10:30 Q&A
- 10:30-10:40 早稲田大学社会科学研究科博士後期課程 山本早紀
「日中語彙交流—楽語「Serenade」を中心に—」
- 10:40-10:50 Q&A
- 10:50-11:00 北京大学外国語学院博士 王利霞
「「同文通考」における異体字に関する一考察」
- 11:00-11:10 Q&A
- 11:10-11:25 休息
- 11:25-11:35 早稲田大学社会科学研究科修士課程 栗原諄彦
「台湾における注音符号の文字化」
- 11:35-11:45 Q&A
- 11:45-11:55 北京大学外国語学院博士後期課程 羅婷婷
「英語小説の和訳・中訳における近代女性代名詞に関する一考察—『小公子』・《小英雄》を例に—」
- 11:55-12:05 Q&A



2020年度第4回北京大学-早稲田大学共同研究交流会

テーマ：漢字・漢語研究の新潮流

日時：2021年1月21日（木）

- 12:05-12:15 早稲田大学社会科学部研究科修士課程 朱寧
「食品の表記の多様性への一般顧客の認識」
- 12:15-12:25 Q&A
- 12:25-12:35 早稲田大学社会科学部研究科修士課程 馮銘奇
「日本近代における当て字文化」
- 12:35-12:45 Q&A
- 12:45-12:55 早稲田大学社会科学部研究科修士課程 康琦
「現代日中における当て字の現状に関する」
- 12:55-13:05 Q&A
- 13:05-13:50 ランチタイム
- 13:50-14:50 自由討論
- 14:50-14:55 早稲田大学国際部部長 Rhee Maji Christine 教授 閉会の辞



2020年度第4回北京大学-早稲田大学共同研究交流会

テーマ：漢字・漢語研究の新潮流

日時：2021年1月21日（木）

講演者：

笹原宏之 教授 社会科学総合学術院

孫建軍 教授 北京大学外国語学院

学生発表者：

山本早紀 早稲田大学 社会科学研究科 博士後期課程

馮銘奇 早稲田大学 社会科学研究科 修士課程

王利霞 北京大学 外国語学院 博士

羅婷婷 北京大学 外国語学院 博士後期課程

栗原諄彦 早稲田大学 社会科学研究科 修士課程

康琦 早稲田大学 社会科学研究科 修士課程

朱寧 早稲田大学 社会科学研究科 修士課程

その他参加者：

Rhee Maji Christine 早稲田大学国際部部長

董昭華 北京大学国際関係学院副院長

高木範夫 早稲田大学国際部事務部長

楊振 早稲田大学国際部アジア展開プロジェクト担当課長

沈向琮 早稲田大学国際部国際課課員

陳芳 北京大学国際関係学院課員



2020 年度第 4 回北京大学-早稲田大学共同研究交流会

テーマ：漢字・漢語研究の新潮流

日時：2021 年 1 月 21 日（木）



テーマ：「友好」という語について

一孫建軍 北京大学外国語学院教授

「友好」は古代から存在する語である。後漢書に用例が確認できる。人と人との間の関係を表す意味として使われていたのが、近代になって国家間関係をも指すようになった。本発表ではこの意味の変遷をめぐり、近代以降中国、日本、欧米の間に締結された条約書及び交渉過程における史料を整理し、その経緯を明らかにしたい。調査した結果、清末の上奏本に新しい意味の「友好」の使用が見られた。アメリカとの間に結ばれた天津条約に初めて「友好」の使用が確認できた。幕末日本と諸外国の条例に「友好」がなかったが、朝鮮半島をめぐる対清交渉の文書に「友好」の使用があった。20 世紀初頭より日本の対外条約の本文に「友好」が正式に登場しはじめた。



テーマ：「日本の漢字研究の最近の動向と新しい課題」

一笹原宏之 社会科学総合学術院教授

1 早稲田大学社会科学総合学術院と担当科目と自身の紹介

専門・学際・国際・臨床

伝統的な小学と、最新の言語科学との連携

漢字文化圏における漢字研究

社会貢献・社会還元

2 最近の日本における漢字研究の動向

日本語学における漢字研究の高まり

2018 年に日本漢字学会の設立

3 日中の漢字研究における課題の一例

西洋度量衡の新字は日中のいずれの造字か？「噸」(トン)「呎」(フィート)など、近代に出現した西洋度量衡に対する訳字については、中国製、日本製の両説が唱えられている。近年、黄河清氏による検討が行われたが、それについて、日本製漢字を専門とする立場から、清代中国の資料と江戸・明治時代の資料とを利用して、さらなる検証を行う。



2020年度第4回北京大学-早稲田大学共同研究交流会

テーマ：漢字・漢語研究の新潮流

日時：2021年1月21日(木)



テーマ：「日中語彙交流－楽語「Serenade」を中心に－」

－山本早紀 早稲田大学 社会科学研究所 博士後期課程

日本における西洋音楽の専門用語(以下、楽語)は、明治期を中心に創出・確立され、多くの表記が今日の慣用として継承されてきた。一方、中国では、康熙期の『律呂正義』続編に、西洋音楽理論や楽語に対する中国語訳が編み出され、中国語訳における西洋音楽に関する知識が充実する。本書は、後に日本にも影響を与えた形跡が見られ、音楽分野においても日中間の語彙交流が窺える。本発表では、日中における語彙交流を踏まえ、日中両国において共通する表記の一つである「Serenade」に注目する。特に、「小夜曲」の訳語表記を取り上げ、「小夜・曲」、「小・夜曲」のように分析し、日本語学等や音楽分野の両側面から検討する。



テーマ：『同文通考』における異体字に関する一考察

－王利霞 北京大学 外国語学院 博士

本発表は『同文通考』(早大本、雄山閣出版)におけるその異体字に関する考察を行ってみた。前半部分では、借用型異体字と誤用型異体字に対し、新井白石が中国語における意味(音・形・義など)を解釈する際に、参考にしてきた中国の代表的な字書(字様書、韻書)を明らかにしようと試みた。加えて、中国の漢字と同じ用法を持った異体字の例について、説明を加えた。後半部分では、新井白石が中国歴代の字書に掲載されていないと判断した訛字型異体字と省文型異体字に対する考察を行った。その結果を基に、中国の代表的な字書に既に記載されていた異体字の用法、敦煌文献といった出土文献における異体字の用法、日本独特の異体字の用法などについても示した。



2020年度第4回北京大学-早稲田大学共同研究交流会

テーマ：漢字・漢語研究の新潮流

日時：2021年1月21日（木）



テーマ：「台湾における注音符号の文字化」

—栗原諄壺 早稲田大学 社会科学研究科 修士課程

現在台湾では、公用の文字に漢字を、発音記号に注音符号を採用している。したがって、注音符号が発音記号の役割を越えて文字として機能している現象は注目に値する。注音符号が文字として使用される現象のことを本研究では「注音符号の文字化」とし、注音文の使用場面の観察と、使用意義を考察する。注音符号が漢字に並んで文字として機能している現状は、台湾が中国語圏の中で発音記号の価値を最も高く位置づけていることを示している。



テーマ：「英語小説の和訳・中訳における近代女性代名詞に関する一考察 —『小公子』・《小英雄》を例に」

—羅婷婷 北京大学外国語学院 博士後期課程

児童文学の分野における女性代名詞を調査することで、使用頻度の高い代名詞を選出し、出版時間を軸に、中日両国の歴史を背景に、その脈絡を考察したい。さらに、若松賤子・亮楽月（ローラ・ホワイト）といった近代女性訳者に焦点を当て、女性解放運動という歴史の動きにともなう中日語彙交流を見つめたい。



テーマ：「食品の表記の多様性への一般顧客の認識」

—朱寧 早稲田大学 社会科学研究科 修士課程

日本語では同じ概念に対して多様な形で表記していることがある。しかし、それぞれの異なる表記が具体的にどの効果を与えているかはまだ調べる余地が多く残されている。そこで、今回ははわれわれの生活に密接な関係がある食品に限定して、「同義多表記」について調べた。おおむね以下の二点を調査した。

① 食品の「同義多表記」を写真撮影の方法で収集する。



2020年度第4回北京大学-早稲田大学共同研究交流会

テーマ：漢字・漢語研究の新潮流

日時：2021年1月21日（木）

② 食品の「同義多表記」へのイメージをアンケート調査で調べる。



テーマ：「日本近代における当て字文化」

—馮銘奇 早稲田大学 社会科学研究所 修士課程

創作物や日常生活で見かけた、漢字に通常の読みではないルビを当てた「当て表記」とその文化を中心に、現代における当て表記がどのようなものか、そしてどのような効果・役割を担っているかについて、簡単な紹介を行う予定である。

主に、サブカルチャーメディアや広告などに用いられていたものを説明していきたいと思うが、明治時代の小説に使われていた「当て字」も取り上げ、現代の用法と比較してみる。



テーマ：「現代日中における当て字の現状に関する」

—康 琦 早稲田大学 社会科学研究所 修士課程

日本語の中には、漢字を通常の読み方で示すことではなく、別の言葉や発音を示す振り仮名を付ける（例えば「宇宙」と書いて「そら」と読むの類）ことがあり、それを「当て字」と呼ぶ。近年、中国のネットでは日本の当て字と似ている表記も現れ、紳(bian)士(tai)のように、漢字の後ろにピンインと括弧を使っ

てほかの言葉を表すことがある。本発表では日中両国の各場面で用いる当て字に基づき、使用意図、表記方法、親文字と振り仮名（ピンイン）の関係の面から分析し、役割、使用実態、今後の発展方向を明らかにする。